

国際帝国主義の侵略反革命・第三世界支配を粉砕し、全世界の帝国主義を打倒せよ！世界プロレタリア革命・世界プロレタリア独裁・共産主義を実現する新しいインターナショナル（世界単一党）を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

政治アピール P1~4
評論／ユーゴ和平 P5
6月アジア共同行動報告 P6~7
アジア太平洋学生フォーラム報告 P8~10

1999年
7月1日
第528号
編集発行人 海路 薫
一部 200円

烽火
ZOROSH-

共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19
明豊ビル401号 大労協内
TEL (06) 6371-3706
○郵便振替 00930-0-63333
○銀行口座 第一勧銀 551-1058150

組織的犯罪対策法制定阻止！憲法調査会設置を許すな！ アジア人民への連帯と反帝国際共同闘争をさらに推進し 戦争への道と総対決せよ



成功した6月アジア共同行動各地区集会（上・東京、下・京都）

こうしたなかで特筆すべきは、韓国やフィリピンをはじめとしたアジア人民との国際主義的な連帯に立ち、日米帝の侵略戦争を阻止するための国際的な反撃を組織しようとするたたかいが登場してきたことである。六月アジア共同行動集会は、韓国やフィリピンの代表が参加し、全国六カ所で国際的な反撃の橋頭堡をさらに強化するものとして開催された。また、全国各地の新ガイドライン関連法案に反対する広範な共同行動のなかでも、韓国やフィリピンから代表を招き、アジア人民との国際連帯を強化していくとする動きがつくりだされていった。

現在、引き続いだ侵略反革命戦争に向けた諸反動立法の攻撃が全面化している。すなわち組織的犯罪対策法・盜聴法・住民基本台帳法改悪・国民総背番号制の導入・中央省庁再編・地方自治体法の改悪・戦争出動に向けた中央集権化と米軍用地特措法改悪・労働者派遣法・職安法の改悪、「日の丸・君が代」法制化などである。これらを阻止する闘争を総力で推進しよう。われわれは、新ガイドライン反対闘争を総括し、そのなかからわが国の階級闘争再建の指針を導きだし、ひき続く任務をここに提起するものである。すべての同志・友人の皆さん／全国各地と職場・地域を貫いて、戦争出動を阻止する総抵抗戦線を形成し、アジア人民との国際主義的結合を進め、日帝打倒・プロレタリア社会主義革命に向けた「正規の攻団」を建設していくではないか。（次頁へ続く）

日の丸・君が代 法制化阻止



有事立法制定阻止

戦争への道を突き進む小沢政権

新ガイドライン関連法の制定によって、日帝はアジア太平洋地域における米軍と共同した戦争出動と労働者人民の動員に向けて決定的な一步に踏み出した。

新ガイドライン関連法は、周辺事態法・自衛隊法改悪・日米物品役務相互提供協定改悪(戦時ACSA)の三つから構成されている。周辺事態法とは、日帝が「周辺事態」と規定する武力紛争に際して、米軍の戦争に自衛隊が「後方支援」し、そのために全国の港湾・道路・空港の利用を軍事優先とし、自治体や港湾・運輸・空港・病院などの労働者を戦争に動員することができるようにするものである。周辺事態法の発動について「緊急時は国会への事後報告」と規定され、これまでの「文民統制」さえ捨て去った歯止めなき戦争出動法なのである。自衛隊法改悪は、海外の「邦人」救出に自衛隊艦船を出動させ、武器使用できるようにするものである。また戦時ACSAは、周辺事態法による戦争出動に際して、米軍と自衛隊の間で物品役務を相互提供できるようにするものである。

おりしも、米軍の朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)に対する全面戦争計画(五〇二七作戦)計画がマスクミリーグされた。米軍の兵士五〇万、艦船二〇〇、軍用機一六〇〇を作戦に投入するその計画は、第一段階でソウル防衛と北朝鮮の戦略施設空爆、第二段階で米韓両軍の北進・北朝鮮への強襲揚陸、第三段階でピョンヤン包囲・占領。その後に韓国主導の吸收統一を実現するというものである。これに対応して、日帝は米韓合同軍事支援のために戦争出動し、総自衛隊の治安出動を行うことなどを検討してきた。その最初の具体化として新ガイドライン法が制定されたのである。さらに周辺事態法から除外された「船舶臨検」のための新法や有事立法制定への動きがますます強まっている。

この戦争法を強行可決した国会では、会期をなんと八月一二日まで延長し、戦争に向けた一連の反動諸立法や反労働者立法が強行されようとしている。アジア一帝を貫く未曾有の経済危機のなかで、自立による右からの強力な「危機突破」を果たそうとする日帝・小沢政権は公明党を抱き込み、反動的諸立法のやりたい放題、オペレードを画策しているのだ。

まず組織的犯罪対策法案が六月一日に衆院を通過した。これは「組織的犯罪」に関与したと認定する団体とその関係者には無制限に監視することを合法化し、「組織的犯罪」を重刑化し、あわせてデッチ上げ弾圧をより容易にする法廷

における「匿名による証言」を導入するものである。それは革命党への弾圧は言うに及ばず、労組や市民団体などに日常的な監視と弾圧の網をかぶせようとする治安弾圧の飛躍的強化を狙うものである。労働者派遣法と職安法の改悪は、独占資本による労働者の不安定雇用化政策を反映し、労働者の使い捨てと雇用責任の曖昧化をさらに促進するものである。中央省庁の再編と地方自治体法の改悪は、内閣に安保・治安・外交の権限を集中し、他方で米軍用地強制使用に関する知事の代理署名や公告縦覧を首相権限へ移行し、収用委員会の徹底した形骸化をはかることで沖縄の反基地闘争つぶしと新たな米軍用地の収用をもくろむものである。住民基本台帳法の改悪では国民総背番号制が導入され、個人情報の国家による管理が徹底化されようとしている。さらに「日の丸・君が代」法制化のための国旗国歌法案が上程され、天皇制・天皇制イデオロギーの強化と国家主義教育の徹底化が狙われているのである。また、憲法改悪に向けた「憲法調査会」設置のための国会法改悪案の上程も必至となっている。

こうした日帝の戦争出動と戦争動員体制の一举的強化は、危機にあえぐ日本独占資本が反労働者的リストラと大失業の強制をおし進め、アジアを主戦場に、欧米独占資本との大競争(市場争奪戦)すなわち帝国主義間抗争において生き残るために不可欠なものである。アジア経済危機と帝国主義による過剰資本を「調整」するアジア各地での大リストラ合理化により、労働者や農民の生活破壊が激化している。日本では、失業率が四・八% (完全失業者約三四〇万人)に達し、韓国ではIMFの構造調整政策のもとで失業率が約一五%を越え、約四〇〇万人の失業者が生みだされている。アジア各地で階級矛盾と階級闘争が激化し、韓国、フィリピン、インドネシアなどで労働者階級を先頭とした闘争が噴出している。アジア唯一の帝国主義である日帝にとって、アジア権益圏の支配のためにこれらの階級闘争の激化を鎮圧することが決定的である。

それは、戦争出動と戦争動員という新ガイドライン関連法の本質に対する危機感の広がりを反映するものであった。昨年一〇月から首都圏においては、全労協や東京地評、沖縄一坪反戦地主会関東ブロックや市民運動を中心として、共産党・社民党・沖縄社大党・新社会党などの

たたかひの新たなる特徴とは何か

新ガイドライン関連法=戦争法制定に至る策動は、九六年の日米安保共同宣言にはじまり、九七年秋の新ガイドラインの締結、そして昨年の新ガイドライン関連法案の国会上程を経て、ついに五月二四日の強行可決へと至った。これに対する闘争が各地で展開されてきた。

それは、戦争出動と戦争動員という新ガイドライン関連法案の本質に対する危機感の広がりを反映するものであった。昨年一〇月から首都圏においては、全労協や東京地評、沖縄一坪反戦地主会関東ブロックや市民運動を中心として、共産党・社民党・沖縄社大党・新社会党などの

現職・元職の国会議員も結集した「超党派一日共闘」の「戦争協力を許さない集い実行委員会」が結成され、たたかいが積み重ねられてきた。関西では、「周辺事態法を廃案へ! 戦争協力をしないさせない実行委員会」が、金港湾・連帯労組関西生コン支部・大阪全労協・自立労連などの労働組合や市民運動などの大潮流によって結成され、たたかいを組織してきた。今年に入つてからは、各地と全国をつなぐ動きも活発化し、二五〇〇人が結集した一・二一大阪集会、二〇〇〇人が結集した一・一四東京集会など反対闘争が高揚していった。他方、各地で自治体への戦争協力拒否の要請行動が活発に取り組まれ、周辺事態法で「協力」を強制される労働者たちが海員組合や全国港湾、航空安全会議などをはじめとしてナショナルセンターの枠を越えて連携し、反対の動きを強めていった。四・五月の攻防では、国会周辺において連日のように法案阻止の行動が行われ、五・二一明治公園集会への五万人の結集へと至つていった。

全国人民政治闘争 の新たなうねり

これらは、かつての社会党・共産党・総評といいう戦後階級闘争構造が完全に崩壊するなかで、全国各地で左派労組や市民運動・学生が合流した新たな地域の抵抗戦線がうみだされはじめてきたことを示している。そして、この戦争に対する広範な自然発生性が拡大するなかで、たかう労働者・人民のなかから国会における新ガイドライン関連法・戦争法の制定を阻止すると個人による共同闘争の要求が強まつていった。こうして広範な労働組合・市民団体・宗教者などが総結集し、日本共産党などの諸政党、諸党派が参加した全人民的な共同闘争として五・二一明治公園における五万人の決起が生みだされていったのである。そして、組織的犯罪対策法案に反対して八〇〇〇人が結集した六・二四日比谷集会でも同様の構造が生みだされた。

三月二三日に勃発したNATOのユーゴ空爆という事態は、新ガイドライン関連法が成立すれば日米韓による北朝鮮への全面戦争がいつでも発動されることを容易に予測させ、新ガイドライン関連法案反対闘争の一定の高揚を加速させる要因となつた。新ガイドライン関連法によつて戦争へと巻き込まれるという危機感が広がるなかで、日帝は新ガイドライン関連法案反対闘争へとおじとどめ、労働者・人民をたたかいから切り離していくために「北朝鮮の脅威」を煽りたて、国益主義・排外主義煽動を強化してきた。日帝は北朝鮮の「地下核施設疑惑」や「ミサイル発射」を口実に「北朝鮮の脅威」を促してきた。

1999年7月1日

アジアと日本を 貫く新たな闘い

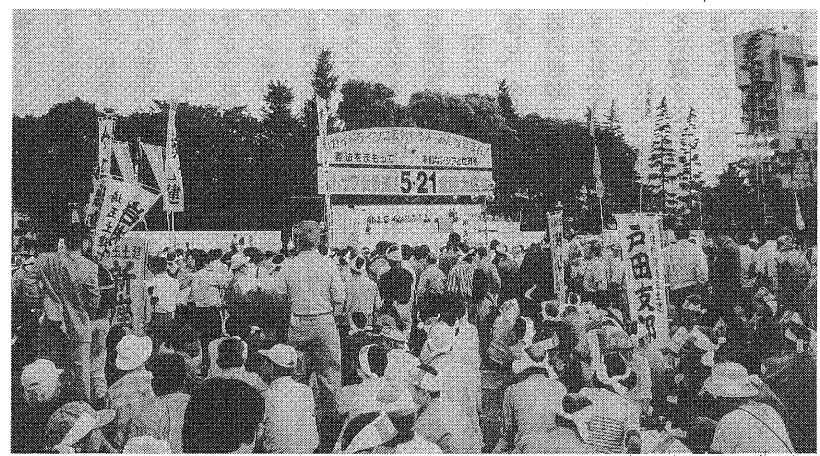
これらは、かつての社会党・共産党・総評といいう戦後階級闘争構造が完全に崩壊するなかで、全国各地で左派労組や市民運動・学生が合流した新たな地域の抵抗戦線がうみだされはじめてきたことを示している。そして、この戦争に対する広範な自然発生性が拡大するなかで、たかう労働者・人民のなかから国会における新ガイドライン関連法・戦争法の制定を阻止すると個人による共同闘争の要求が強まつていった。こうして広範な労働組合・市民団体・宗教者などが総結集し、日本共産党などの諸政党、諸党派が参加した全人民的な共同闘争として五・二一明治公園における五万人の決起が生みだされていったのである。そして、組織的犯罪対策法案に反対して八〇〇〇人が結集した六・二四日比谷集会でも同様の構造が生みだされた。

三月二三日に勃発したNATOのユーゴ空爆という事態は、新ガイドライン関連法が成立すれば日米韓による北朝鮮への全面戦争がいつでも発動されることを容易に予測させ、新ガイドライン関連法案反対闘争の一定の高揚を加速させる要因となつた。新ガイドライン関連法によつて戦争へと巻き込まれるという危機感が広がるなかで、日帝は新ガイドライン関連法案反対闘争へとおじとどめ、労働者・人民をたたかいから切り離していくために「北朝鮮の脅威」を煽りたて、国益主義・排外主義煽動を強化してきた。日帝は北朝鮮の「地下核施設疑惑」や「ミサイル発射」を口実に「北朝鮮の脅威」を促してきた。

アジアと日本を 貫く新たな闘い

これらは、かつての社会党・共産党・総評といいう戦後階級闘争構造が完全に崩壊するなかで、全国各地で左派労組や市民運動・学生が合流した新たな地域の抵抗戦線がうみだされはじめてきたことを示している。そして、この戦争に対する広範な自然発生性が拡大するなかで、たかう労働者・人民のなかから国会における新ガイドライン関連法・戦争法の制定を阻止すると個人による共同闘争の要求が強まつていった。こうして広範な労働組合・市民団体・宗教者などが総結集し、日本共産党などの諸政党、諸党派が参加した全人民的な共同闘争として五・二一明治公園における五万人の決起が生みだされていったのである。そして、組織的犯罪対策法案に反対して八〇〇〇人が結集した六・二四日比谷集会でも同様の構造が生みだされた。

三月二三日に勃発したNATOのユーゴ空爆という事態は、新ガイドライン関連法が成立すれば日米韓による北朝鮮への全面戦争がいつでも発動されることを容易に予測させ、新ガイドライン関連法案反対闘争の一定の高揚を加速させる要因となつた。新ガイドライン関連法によつて戦争へと巻き込まれるという危機感が広がるなかで、日帝は新ガイドライン関連法案反対闘争へとおじとどめ、労働者・人民をたたかいから切り離していくために「北朝鮮の脅威」を煽りたて、国益主義・排外主義煽動を強化してきた。日帝は北朝鮮の「地下核施設疑惑」や「ミサイル発射」を口実に「北朝鮮の脅威」を促してきた。



全国人民政治闘争の新たなるうねりを示した5・21集会

こうした歴史的な攻防のなかで、日帝ならびに米帝を心底から恐怖にたたきこむ重要なたたかいが登場してきた。それは、まず第一にアジア最大の米軍基地が集中する沖縄における反基地反安保闘争であり、第二には日帝のかつての植民地支配と侵略戦争・占領によって筆舌につくしがたい被害を受けた韓国やフィリピンなどアジア各国における人民のたたかいであり、第三にはこれらのアジア各国におけるたたかいと沖縄を含む日帝本国の新ガイドライン関連法案反対闘争が結合し、アジア・沖縄・「本土」を貫くたたかいが開始されたことである。

一九六年日米安保共同宣言から新ガイドライン関連法制定という戦争出動への流れのなかで、沖縄人民の反基地反安保闘争は巨大で先進的なたたかいをくり広げ、名護ヘリ基地計画など米軍基地の強化を阻止し、「本土」人民の決起を促してきた。九五年の米兵による少女レイプ事件を機に、沖縄では「島ぐるみ」のたたかいが再高揚し、翌九六年四月に知花昌一さんが所有する米軍楚辺通信施設（象のオリ）の一部が使用期限切れとなり、政府による「不法」占拠が発生した。他方、日米安保共同宣言による「新安保体制」とSACO合意による米軍基地・施設の「県内移設」＝新たな基地強化策動、一九七年五月の反戦地主・一坪反戦地主約三〇〇〇人の軍用地強制使用期限切れに対する四月の米軍用地特措法の改悪という日帝の攻撃に対し、沖縄人は公開審理闘争を通して一三カ所の強制使用申請棄却裁決をたたかい取り、名護ヘリ基地建設計画に反対する市民投票に勝利するなどの大攻防を開催し、さらに韓国反基地闘争との連帯をすすめ、沖縄「本土」－アジアを貫く反米軍基地反安保闘争を推進してきた。

こうした戦争出動に反対する最前線のたたかいで、現在日帝は歴史的大攻撃を打ちおろしている。全国平均の二倍の失業を沖縄に強いたうえで、その現実を背景にして「振興策」と引換えに基地の容認を迫り、保守政治家を名護市長選や沖縄知事選へ担ぎだし、金・人・情報の総力を使って基地に反対する革新自治体首長をつぶそうとしてきた。現在、那覇軍港の浦添移転計画が浮上し、普天間基地返還の代替としてのヘリ基地建設の新たな策動が開始され、これらSACO合意による基地強化の最大の柱として二〇〇〇年沖縄サミット開催の攻撃が打ちおろされている。われわれは、この間の沖縄闘争の発展に責任をもつてかかわってきた者として、この攻撃を絶対に許してはならず、アジア人民との連帯と共同のたたかいによって、沖縄闘争の防衛と発展を実現していかねばならない。

他方、かつての日帝の朝鮮植民地支配や中国侵略戦争、東南アジア・太平洋における侵略戦争と占領、これらの過程を通して二〇〇〇万人以上が虐殺されたアジア各国において、労働者人民からの日帝に対する怨嗟（えんさ）は国家としての謝罪と戦後補償を未だ実現しない日帝への怒りとして渦巻くとともに、新ガイドライン関連法案＝戦争法への弾劾と反対の声として吹きだしている。大阪での「戦争協力をしないさせない実行委員会」や首都圏での「戦争協力を許さない集い実行委員会」をはじめとした各地の闘争に韓国やフィリピンのたたかう人民からの連帯メッセージが寄せられ、現地の大衆組織の代表が来日して発言するなど、アジア人民への連帯と共同闘争として新ガイドライン関連法案反対闘争が進められてきた。韓国の在野運動では「米国と日本の戦争策動と経済侵略に対する非常対策委員会（準）」が結成され、日本の闘争に連動して決起し、民主労総・農民連合・貧民連合・韓総連などが結集した「民衆生存権争取、社会改革、IMF反対、汎国民運動本部」からもメッセージが日本に寄せられた。九年に米軍基地撤去をかちとつたにもかかわ

らず、再び全土を米軍基地化するVFA（米軍一時駐留協定）を批准する策動が進行するフィリピンからは、BAYAN（新民族主義者同盟）をはじめとした広範な人民が結集する「つぶせVFA運動」の代表が来日し、また連帯メッセージが寄せられた。

このような沖縄のたたかいとの連帯、さらにたたかうアジア人民との連帯と共同行動が、新ガイドライン関連法案反対闘争のなかで大きく前進した。これらの画期的な国際主義的たたかいを推進したのは、アジア共同行動日本連に結集する各地実行委員会やJPM'90であった。アジア共同行動日本連は、また国会周辺での抗議行動をたたかい抜き、各地方・地域の新たな政治的抵抗戦線の建設を推進し、国際主義をもつ

反帝国主義・社会主義革命へ

そのための七月における任務の第一は、各地域で左派労組・市民運動・学生運動などの総結集による新たな政治的抵抗戦線を拡大し、戦争を阻止するための全人民的な政治共闘の形成を推進し、ひき続く戦争出動と総動員体制の強化を粉碎することである。新ガイドライン関連法のもとでの戦争出動・総動員体制の具体的動きが「自治体の協力事項」の強制や日米軍事演習の強化、さらには自衛隊に対する労働者・市民の距離感や抵抗感を埋めるためのセレモニーの強化などとして各地で進められようとしている。また延長国会においては、一連の戦争動員と治安強化などをめぐるための法案が自公によって一挙に制定されようとしている。こうした攻撃に対し、各地で形成されつつある政治的抵抗戦線を強化し、戦争協力に反対する自治体要請行動、日米軍事演習反対闘争、反自衛隊闘争を断固として進めていかねばならない。さらに、組織的犯罪対策法、住民基本台帳法改悪案、地方自治体法改悪・米軍用地特措法改悪、中央省厅再編法、労働者派遣法・職安法改悪、「日の丸・君が代」法制化など、戦争への総動員体制を強化する一連の反動立法に対する労働者人民の怒りを堀りおこし、これらの阻止闘争を広範に総力で組織していかねばならない。六月二十四日には、組織的犯罪対策法に反対する約八〇〇〇人が結集した闘争がたたかわれた。戦争出動・総動員攻撃に反対する全人民政治闘争に多くの労働者の決起を組織し、これらを粉碎していかねばならない。

第二には、これらの全人民政治闘争の内部で、排外主義との鮮明な分岐を組織し、反帝国主義へとたたかいを領導していくことである。日本が戦争へ巻き込まれること、あるいは自らが戦争へ動員されることへの危機感が広範に生みだされ、それが党派の垣根をこえた全人民政治

てたたかいを牽引しねいたのである。とくに五月十四日から一六日までの沖縄現地闘争、同じく一四～一七日の韓国への労働者派遣と民衆大会への参加など、新ガイドライン関連法案反対闘争を沖縄・「本土」―アジアを貫く国際的な共同闘争へと押し上げていったのである。われわれは、国内内外で強まる労働者への生活破壊と戦争への動員攻撃に対し、社・共・総評という戦後階級闘争構造が崩壊したなかで、各地で新たな政治的抵抗戦線を形成し、さらに戦争出動を阻止する全人民的な政治共闘に向かう巨大多流れをいっそう強化し、その内部でたたかうアジア人民との国際主義的結合を推進し、反帝国主義に立脚し闘争へと前進させるためのたたかいをさらに強化しなければならない。

第三には、日帝を免罪し排外主義に純化する日共、そしてこのような日共に屈伏・追随し、あるいはたたかい切ることができない諸党派、すなわち右翼日和見主義者や一国主義・急進民主主義者との党派闘争を組織し、本格的なプロレタリア前衛党的建設を推進することである。「正規の攻撃」の組織化へと労働者を結集させていかねばならない。

第四には、日帝を免罪し排外主義に純化する日共、そしてこののような日共に屈伏・追随し、日帝がふりまく「北朝鮮脅威論」による排外主義煽動や海外権益擁護の帝國主義的排外主義に對して、未だこれとたたかい切れない大きな弱さが内包されている。戦争に巻きこまれることや戦争に動員されることに反対する労働者人民のたたかいを排外主義から分岐させ、日帝と正面から対決する主体へと労働者人民を前進させていかねばならない。そのためには、アジアやシリア・インドネシアの代表、そして沖縄およびアジア共同行動日本連の代表の参加による国際シンポが台湾労働党の主催によって開催される。さらに八月のアジア連帯ツアーガ組織され、いつそうアジア規模での日米帝の戦争出動に反対するたたかいが強化されようとしている。これらを断固成功させようではないか。

第三には、労働者の経済闘争と政治闘争を結合し、全面的政治暴露を強化し、戦争と生活破壊の根源である日本帝国主義の打倒とプロレタリア社会主義革命に向けた「正規の攻撃」組織を対置するだけでは、日帝の侵略反革命戦争とはたたかい切れない。国際主義をもってたたかうを領導することとともに、戦争の階級的性格を全面的に暴露していくことが不可欠である。

アジア共同行動集会が大成功

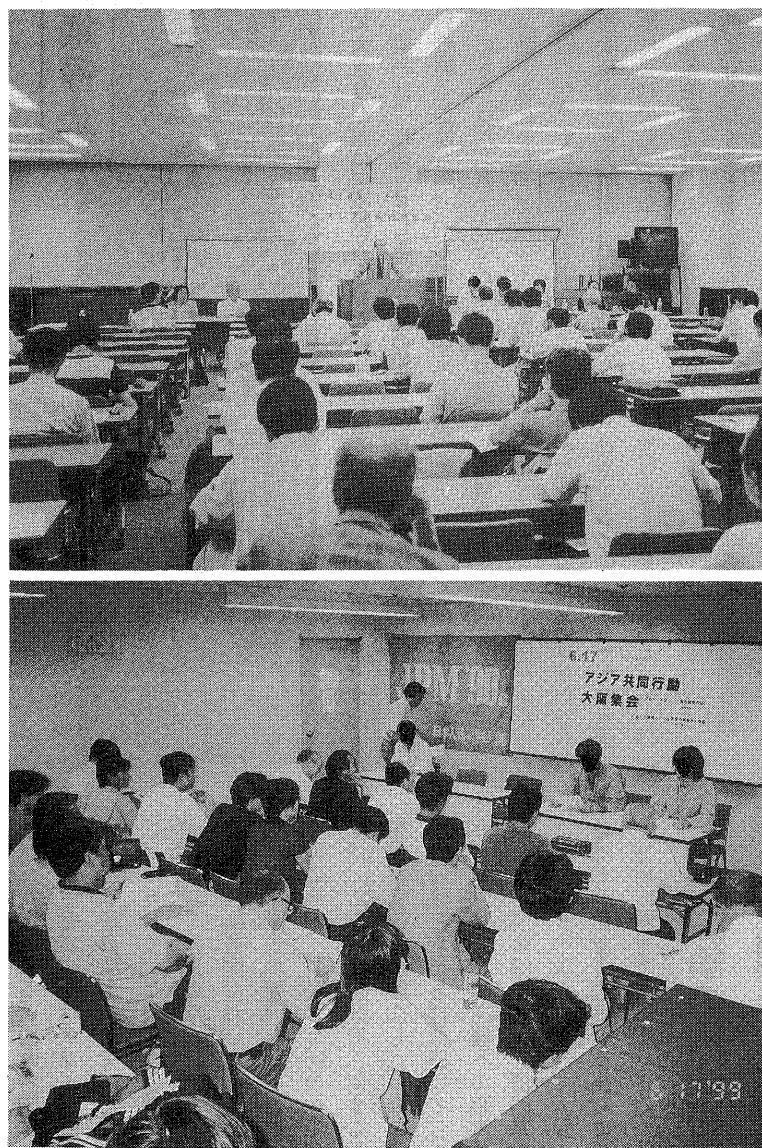
激動する韓国から代表招き 国際共同闘争の推進を誓う

6・16 東京

東京・大崎労政会館で、六月一六日、「生活破壊と戦争の道を許さない／六・一六アジア共同行動集会」が約一〇〇人を集めて開催された。全国一般神奈川地連と大田区職の労働者が司会を行い、冒頭、新ガイドライン関連法の強行採決を弾劾し、戦争への道を許さないたたかいを訴えた。この集会には韓国在野運動の二人の活動家とフィリピン・BAY ANの活動家が海外ゲストとして参加し、会場から万雷の拍手で迎えられた。

集会ではまず、インドネシアからの連帯メッセージが紹介された。インドネシアの活動家はこのメッセージにおいて、日米防衛新ガイドラインに反対する日本のたたかいへの連帯を表明するとともに、新ガイドラインによるインドネシア国軍支援を阻止することを要請した。その上で総選挙におけるメガワティ闘争民主党の勝利については、彼女らがIMFや日米帝の支配と結合する「新自由主義政策」を堅持していることを弾劾し、日米帝・IMF・世銀・アジア開発銀行によるアジア支配を粉碎しようと呼びかけた。続いて、弁護士の内田雅敏さんが、新ガイドライン・盗聴法・労働者派遣法改悪など諸反動立法の制定策動を弾劾し、ともにたたかおうと訴えた。

主催者あいさつでは、斎藤一雄共同代表が、新安保体制・戦争遂行のための新ガイドラインや実質的な憲法改悪の進展を弾劾し、政府・独占資本が反労働者政策・生活破壊不安を拡大し、国連安理会常任理事国入りなどアジアの盟主として政治・軍事支配を強化していることを暴露し、アジア民衆に連帯し戦争への道を阻止しようとした。



上・6・16東京集会

下・6・17大阪集会

つぎに韓国ゲストから発言が行われた。最初に発言に立ったゲストは、昨日の静岡・東富士の米軍演習阻止闘争に参加したことなどを報告し、新ガイドライン・戦争法に引き続き反対を推進しようと述べた。また、韓半島への日米の戦争策動を絶対に許さず、米朝の休戦状態を終了させ、平和協定を締結することが必要であること、さらに南北民衆の自主的統一運動への支援を訴えた。次に発言したもう一人の韓国からのゲストは、日本が近くで遠い国であること、長い歴史関係では友好・協力の交流と日本による抑圧の双方があつたことを冒頭で述べ、IMFの韓国民衆支配および都市貧困との運動について報告した。そして労働者と都市貧困の解放のために、基層民衆の階級的連合政党である「進歩政党」を準備し、基層民衆の政治権力を展望してはじめたこと明らかにした。さらに「万国の労働者団結せよ」、国境を越えて日韓労働者連帯を進めようと訴え、最後にこのようなセミナーだけでなく、行動を起こすことが最も重要なまま衆議院を通過したことを改悪案が、ほとんど「国民」に知られないまま衆議院を通過したことを

斐リピンからのゲストは、韓国連帯メッセージが紹介された。斐リピンでは貧民地区で軍事作戦が遂行されていることだけだと述べた。そして米軍再駐留協定VVF A反対闘争を紹介し、五月二七日に上院で協定が批准されたことを報告した。これにより米帝がアジアでの軍事支配を強化し、日本も日米新ガイドラインによる日米共同軍事作戦を実行されると述べた。斐リピンは、アジア侵略戦争に乗り出したことを弾劾し、さらに斐リピン・韓国・日本の民衆間の連帯を強化しようとした。

連帯アピールとして、沖縄一坪反戦地主会関東ブロックの吉田さんは、戦争準備に踏み込んだ日本政府の米軍用地特措法再改悪の戦慄すべきねらいを暴露した。吉田さんは、地方自治法改定の一部として、沖縄反基地闘争の解体をねらい、政府の米軍用地強制使用の権限を強化し、有事立法を先取りした米軍用地特措法再立法を実現した。吉田さんは、五月に行なった「アジア太平洋学生フォーラム」の報告を行ない、アジアの学生とともに反帝闘争を進めると決意表明した。

全体のまとめと行動提起を全国一貫労働組合全国協議会の中岡基明委員長が、岸本さんは失業率四・八%失業者約三三〇万人の大失業時代、生計と権利を奪われたぼう大な労働者のために、組織労働者が未組織労働者がためにたたかい、反戦平和をたたかうことがこれまで以上に重要になっていると述べ、労働運動と反戦平和のたたかいを推進すると決意表明した。つぎに部落解放同盟墨田支部の藤本執行委員は、戦争準備とともに部落差別が拡大し、民衆の思想・精神を戦争へ動員するために天皇制および「日の丸・君が代」法制化が一挙に強化されていることを糾弾し、差別排外主義とたたかい戦争への道を阻止しようと訴えた。遠藤良子さんは、「日の丸・君が代」法制化に対し、教育労働者が立ち上がりはじめたことを報告し、たたかうへの結集を訴えた。東洋大学の学生は、五月に行なった「アジア太平洋学生フォーラム」の報告を行ない、アジアの学生とともに反帝闘争を進めると決意表明した。

徹底的に弾劾した。そして、今後たたかいを拡大する上で、かつて戦争へ動員された時代とは異なり、民衆はそう簡単に戦争へは動員されず、反対運動もかつてのように未だ禁止されていおらず、まだまだたたかいはこれからだと呼びかけた。

諸運動団体の発言として、まず東京東部労組の岸本委員長が発言に立った。岸本さんは失業率四・八%失

●報告・アジア太平洋学生フォーラム

アジア各国の学生たちとの共同闘争 反帝國際主義派学生運動の前進刻印

さる五月六日から一〇日にかけて、京都において、「グローバリゼーションのアジアの学生への影響」をテーマとして、アジア太平洋地域の学生組織の代表が一堂に会する国際会議=「アジア太平洋学生フォーラム」(APSF)が開催された。またその後、五月一日から五日にかけて、東京・関西・西日本の各地で、アジア各地から来日した学生を迎えての集会・交流会などの取り組みが積み重ねられた。このフォーラムは、アジア太平洋地域の学生運動体のネットワーク組織である「アジア学生協会」(ASA)の活動の一環として行われ、日本側では、ASAに加盟する「反侵略アジア学生共同行動」に結集する学生をはじめ、全国の学生団体・個人によって構成される「アジア太平洋学生フォーラム日本実行委員会」によってその成功に向けた準備が進められてきたものである。

各国・地域における学生運動・民主運動のまさに最先頭でたたかう学生代表を迎えて、また多くの日本からの参加者を得て成功裏に終了したAPSFは、帝国主義の支配とたたかうアジア各地の学生運動の相互連帯と共同行動をいつそう前進させ、かつ日本における学生運動の国際主義的な発展の地平を極めて鮮明に刻印するものとなつた。

★アジア九ヶ国・地域から代表が参加★

今回のアジア太平洋学生フォーラムは、さる三月に行われたASA総会以降のASAとしての最初の国際的取り組みとして行われた。タイでのASA総会は、「帝国主義的グローバリゼーションとたかう民衆運動

APSFの海外参加団体

- 韓国ソウル大学総学生会
- 香港・香港学生連盟 (HKFS)
- フィリピン・フィリピン学生同盟 (LFS)
- タイ・タイ学生連盟 (SFT)
- インドネシア-Women's Communication and Action Forum
- インド・インド学生連盟 (AISA)
- ニュージーランド・ラジカル・ソサエティー
- 東チモール・東チモール学生民族抵抗運動 (RENETIL)
- パレスチナ・パレスチナ学生総同盟 (GUPS)
- アジア学生協会事務局

APSFのプログラム要旨

- 5月6日 参加者登録
- 5月7日 基調報告 ①グローバリゼーションのアジア青年への影響、②IMF・世界銀行・多国籍企業、③日米安保体制、④人権と民主主義
- 5月8日 分野別報告 ①教育、②女性、③環境、戦争と紛争
- 5月9日 各国・地域報告
- 5月10日 フォーラム宣言の採択

からインスピレーションを得よう」「二二世紀に向かって、アジア太平洋地域の学生運動の経験を蓄積し、抵抗を発展させよう」というスローガンのもと、日本からを含んでアジア太平洋全域から二十九カ国・地域の四五の学生組織が参加し、また新規加盟団体も増えるなど、一昨年以来のアジアをつなぐ経済危機のかたでアジアにおける学生運動の発展と再活性化のきさを印象づけるものであった。それを受けて行われたAPSFは、帝国主義的グローバリゼーションとたかうアジア太平洋地域の学生運動の発展に向け、ASAとして今後の数年間のアジアの学生の共同行動の計画をつくりだしていくという極めて実践的な目的をもつて準備されてきたものであつた。

今回のフォーラムには、ASAの内外をつらぬいて、九カ国・地域の学生組織およびASA事務局(在香港)を代表して、一人の海外の学生をめぐる討論が開始された。この日はまず、ASA事務局から翌五月七日よりフォーラムとその主題をめぐる討論が開始された。この日はまず、ASA事務局から「グローバリゼーションの神話を葬り去れ」と題する基調的提起が行なわれた。それは日本の学生の実践的任務として新ガイドライン・安保との闘争を提起しつつ、アジアの反帝民族解放闘争の敵としての日米軍事同盟の性格を暴露し、日米帝国主義の軍事支配・侵略に対するアジアの学生の共同のたたかいを提起するも

生活動家の参加があつた。参加団体については以下のとおりである。

韓国・香港・フィリピン・タイ・インドネシア・インド・オマーン・アラブ(ニュージーランド)・東チモール・パレスチナのまた日本からは約100人の学生の参加がこのフォーラムに参加して、アジア各地でたたかう同世代の活動家たちとともに、活動に討論を重ね、各地のたたかいの経験を学んだ。

われ、グローバリゼーションの破壊的影響を暴露するとともに、それに対する学生のたたかいの発展を力強く呼びかけた。続いて行われた同じくASA事務局からの「IMF・世界銀行・多国籍資本」に関する報告は、帝国主義の支配の道具としてのIMF・世銀の役割を痛烈に批判するとともに、多国籍資本に関してはそれが「国籍を越えた」存在ではなく、特定の国家と結びつき庇護を受けつつ国境を越えて搾取・収奪を強化しているという観点から闘争を設定すべきという角度での報告として行われた。さらに、反侵略アジア学生共同行動から日米軍事同盟とアジアにおける米軍基地に関する報告が行われた。それは日本の学生の実践的任務として新ガイドライン・安保との闘争を提起しつつ、アジアの反帝民族解放闘争の敵としての日米軍事同盟の性格を暴露し、日米帝国主義の軍事支配・侵略に対するアジアの学生の共同のたたかいを提起するも

のであった。さらにインドの代表から「人権と民主主義」に関する報告が行われ、その後、それぞれのテーマにに関する分科会が行われた。

二日目の五月八日は、①教育、②女性、③環境、④戦争と紛争、といふそれぞれのテーマで報告とそれぞれの分科会が行われた。それぞれの報告を通じて、グローバリゼーションがあらゆる領域において深刻な影響を与えており、それがアジアをつらぬいて進行している事態であることが浮き彫りにされた。同時に、グローバリゼーションの進展、各国における新自由主義政策の結果は、学生を含む青年層の生活と教育をも直撃し、それに対する共同の反撃が急務となつた。これらの報告は、基本的に、挙げられた課題に対するたたかいを帝国主義批判と結びつけて発展させていこうという角度から提起された。

翌九日は、各国・地域の現状とたたかいに関する報告にあてられた。

三二年にわたるスハルト独裁政権を打ち倒すそのたたかいの先頭に立ち、今日ハビビ政権と対峙するインドネシア学生運動、長期にわたる独立運動を経て、きたる八月に住民投票を控える東チモールの学生のたたかい、米軍一時駐留協定(VFA)批准に對する闘争のクライマックスのなかから参加したフィリピンの学生・民衆のたたかい、暫定自治合意期限切れを間近に控えたパレスチナなど、今回のフォーラムには政治的な流动と民衆運動の高揚の渦中から参加した代表が多く、その報告は会場の参加者の関心を呼んだ。

最終日である五月一〇日は、フォーラムの宣言文の採択と行動計画の立案に向けた議論にあてられた。そして活発な討論を経て、「われわれは帝国主義的グローバリゼーションを拒絶する!」と宣言し、「民主的権利と福祉への攻撃に対しても団結すること。それぞれの国的学生運動を強化し、他国の学生運動と強力に結びつけること、そして社会変革を求める抑圧され搾取されている民衆の運動に学生運動を学生運動をしっかりと結合させること」を共通の課題として確認し、アジア地域における日本帝国主義の軍事強化に対する闘争を含むいくつかの共同の行動を提起

規制緩和を批判し、青年・学生や民衆と捉える見地から、アジア各地をつらぬいて進行する自由化・民営化・

★
行動の推進を確認★

平洋学生フォーラムは成功のうちに幕を閉じた。海外から参加した学生活動家、そして日本からの参加者もまた、アジアの各地においてたかう同世代の仲間との深い連帯とグローバリゼーションとたたかうアジアの学生運動の前進を誓い合った。それはアジアの学生運動の共同行動をさらに一步促進させ、日本の学生運動の今後の発展の展望にとっても極めて大きな意味をもつものであった。

フォーラムの全過程振り返って、ここでそれが示した意義を簡潔に示しておこう。

その第一は、今回のフォーラムが、帝国主義のアジア支配と正面から対決するアジアの学生運動の反帝共同闘争として取り組まれたことにある。帝国主義のアジア支配と正面から対決するアジアの学生運動の反帝共同闘争として取り組まれたことにある。

一・ナイトで互いの交流を深めた後に、連帯を海外参加者は、翌日から

の東京・関西・西日本での取り組みへと出発した。

プログラム終了後のソリダリティする宣言文が全参加者の一致をもつて採択された。

プログラム終了後のソリダリティ一・ナイトで互いの交流を深めた後に、連帯を海外参加者は、翌日から

の東京・関西・西日本での取り組みへと出発した。

★ 反帝に立脚し共同 行動の推進を確認★

平洋学生フォーラムはそのような帝国主義的グローバリゼー

tion、また国境を越えた共同闘争が広がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで、日米帝国主義が、I

MF・世界銀行などの国際機関を活用しつつ、いつそうの支配と侵略を拡大しようとしているなかで、アジ

ア各地でそれに対する民衆の抵抗闘

争、また国境を越えた共同闘争が広

がっている。今回のフォーラムはそ

の学生運動に新たな地平を刻印し、

その影響を暴露し、社会の根底的な

変革のために帝国主義とのたたかい

に立ち上がるのを呼びかけるもの

であった。アジア各国における経済危機のなかで

資料

アジア太平洋学生フォーラム宣言

われわれは、反侵略アジア学生共同行動に参加する学生活動家をはじめ、この地域の学生と民衆へのグローバリゼーションの過程と結果に服従させられている。われわれアジア太平洋地域の一〇カ国の学生組織は、この地域の学生と民衆へのグローバリゼーションの影響に焦点をあて、われわれの分析を深めるために、アジア太平洋学生フォーラムに集まつた。

実際に、グローバリゼーションは、独占資本主義のわれわれの教育システム・環境・政治構造への参与と支配を促進している。多国籍企業や世界銀行・IMF・WTOのような国際金融機関、そしてAPEC・ASEM・MAIのような多角的貿易機構は、結論的に言えば、国家とともに社会のすべての領域の自由化、民営化、規制緩和のプログラムを押しつけるため行動している。

教育は特権ではなく、生まれながらの権利である。しかしグローバリゼーション政策のもとで、教育システムは、世界の「状況の変化」と呼ばれるものに合わせるために、国家と巨大企業によって、再編され、改革してきた。しかし、これはただ、教育が、体制を維持するために訓練されたエリートの一群を生み出す一方で、莫大な柔軟で熟練した労働力を確保するという巨大多国籍資本の必要に奉仕するためにつくらっているということを意味するにすぎない。実際に、グローバリゼーションは、先進国と開発途上国との双方で、国立教育機関の民営化の激増によって、大多数の青年にとって教育を受けにくくなっているだけである。それは消極性と無関心を促進し、批判的思考を否定し、学生を社会の解放から分けへだてる教育である。この種の教育というのは決してわれわれ民衆の眞の利益に奉仕するものではない。それは決してわれわれ民衆ではない。それは決してわれわれ民衆ではない。

われわれは、反侵略アジア学生共同行動に参加する学生活動家をはじめ

め全国の学生が切り開いたこの地平に立脚し、日本とアジアの学生運動

の前進を切り開き、反帝・国際主義派学生運動の飛躍のためにさらに全

力をあげてたたか抜いていく。

アシア太平洋地域の民衆と学生は、ものではなく、一握りの人にのみその権利を与えるものだからである。

人権の問題は、民衆の公正な政治的権利であるが、この問題は、主権に關わる事柄に介入し、基本的人権を攻撃するため、西側諸国によつて欺瞞的に使われてきた。かれらの偽りの人権の促進は、第三世界の民主主義を助長するものでも発展を促進するものでもない。現実には、それは民衆を分断し支配することを目的としており、世界の学生と労働人民に巨大な抑圧をもたらしてきたのである。それゆえ、われわれはこのような考え方を拒絶することを求め、そして第三世界における誤った「開発主義」——それはまだ抑圧を正当化するだけである——を警戒するよう呼びかける。われわれは、われわれの基本的権利を擁護する運動を広げ、たえず国家機関による暴虐を暴露していくなくてはならない。われわれは、われわれの権利に対するすべての形態での差別と侵害を終わらせるこ

とに、発展と進歩をもたらそうとするものではなく、一握りの人にのみその権利を与えるものだからである。

同様に、上述の帝国主義の代理人たちは、環境破壊に対する最も犯罪的な責任を負っている。世界秩序のものでは、実際、ふたつの世界大戦をして団結すること。それぞれの国

学生運動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するという可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(1) それぞれの大学のなかで、フォーラム、セミナー、スタディー・セッション、情報共有を行うことを通じて、今回の会議の結果を宣伝し普及すること

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(2) グローバリゼーションと軍国主義に反対する共同の連帯行動やキャンペーンを行うこと

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(3) 一九九九年一月にフィリピン・マニラで開催される、グローバリゼーションの社会的影響についてのASA会議を支援すること

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(4) 一九九九年八月の東チモールでの住民投票のための国際モニタリンググループに参加すること

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(5) 一月一米国・シアトルでのWTO会議の開催

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(6) 二月一アオテアロア／ニュージーランドでのアジア太平洋経済協力会議の開催

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(7) 三月一東チモールでの住民投票の日

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(8) 四月一アオテアロア／ニュージーランドでの住民投票のための国際モニタリンググループに参加すること

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(9) 五月一七日一訪問米軍協定の斐リピン上院での投票日

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(10) 六月一五日一日米安保条約に反対する闘いの記念日であり、PKO法が制定された日

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(11) 七月一東チモールでの住民投票の日

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(12) 八月八日一東チモールでの住民投票の日

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(13) 九月一アオテアロア／ニュージーランドでのアジア太平洋経済協力会議の開催

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない。しかしだれわれの権利のために共同で闘い、帝國主義的グローバリゼーションに抗えるあらゆる民衆の闘いと結びつくことを通じてのみ、その可能性は見えてくる。

(14) 一九九九年一月にフィリピン・マニラで開催される、グローバリゼーションの社会的影響についてのASA会議を支援すること

学生が直面している共通の課題（挑戦）を見いだした。それは、われわれの民主的権利と福祉への攻撃に対する抗議行動を強化し、他国の学生運動と、その後の侵略および大量破壊兵器の使用によって、われわれは被害を受けってきた。彼らは、不平等な貿易・投資慣行を通して、食料保障を脅かし、われわれの天然資源の所有権・支配・使用を独占し、先住民族の文化的虐殺をそそのかしている。

われわれは、民衆のせいであると言つていよいまだ恥知らずにも、かれらは、環境の悪化と破壊の兆候が現れている。こうした考え方には反対する。

世界経済の参画を通して女性を解放するといつ主張とは裏腹に、グローバリゼーションは女性に対するより悪質な商品化・奴隸化・抑圧をもたらしてきた。最も不當な暴力——個人的・集団的な、性的・構造的な、また戦争と軍事化におけるそれは、女性に向けられている。グローバリゼーションの過程に関わることで女性解放が前進するといつ可能性を見いだすことはできない